3.7 課題の集約

これまで述べた広域的問題、地域的問題から次のような課題が集約されます。

(1)緑の保全と創出

町民が愛し親しむ財産である狭山丘陵や狭山池周辺の希少な植物、水辺環境、農地を大切に守るとともに、新たな魅力ある自然空間を創出し、将来に引き継ぐことが必要です。

(2)農と水辺環境の再生

古来、狭山池は水をたたえる広大な池であったといわれ、狭山丘陵の谷戸から流れ出る水が残堀川を形作ってきました。また、江戸時代の新田開発、昭和時代の土地改良事業に代表されるように農地が開発されてきました。

このような歴史を持ちながら、市街化の進行によって都市基盤整備が進み、利便性の向上した街並みが形成された一方で、湧水量の減少や不耕作地が増加しています。

今後は、農地の保全や水辺環境の再生に取り組み、これを観光資源や産業活性化の原動力と位置付けることが必要です。

(3)水と緑の拠点をつなぐネットワークの形成

水と緑は、人の心に潤いを与えるとともに、人と人とのふれあいをつくる資源です。また、水や緑と人がかかわりあって、歴史や文化を形成してきました。

町の資源である水と緑を魅力ある地域づくりに最大限生かしていくために、水と緑の拠点づくりとこの拠点と多様な歴史・文化の地域資源を相互に結ぶルートの整備など、水と緑のネットワークを形成する取組を推進していく必要があります。

(4)住民、事業者、町がともに取り組むまちづくり

貴重な自然や歴史・文化を守り、水と緑を活用し、新たな人や物の交流を創出するためには、住民、 事業者、行政が協働で取り組んでいくことが不可欠です。

また、住民参加による取組は、地域への愛着や誇りを育むことにもなり、安全で豊かな地域環境を 形成するうえでも重要です。協働の視点にもとづき、住民、地域、企業などが行政との役割分担を行 い、お互いが支え合う取組を推進する制度やしくみづくりを行う必要があります。

3.8 水・緑と観光を繋ぐ回廊計画の方針

3.8.1 計画の基本理念

回廊計画を計画するに当たり、基本理念を以下とします。

町民一人ひとりが豊かな心と生きがいをもって、潤いのある快適な空間で、活力に満ちた生活を送ることができるよう、住民及び事業者、行政が協働して、水と緑の保全及び新たな人や物の交流を創出することに努めます。

そして、このまちに暮らす人々が自らのまちに誇りを感じながら、未来に引き継 ぐことやまちを訪れる人々がこのまちに愛着を持てるように努めます。

このような考え方に立ち「みらいに ずっと ほこれるまち」の実現に取り組みます。

3.8.2 水、緑、観光の定義

回廊計画を計画するに当たり、水、緑、観光の定義を以下としました。

水、緑、観光の定義

水 : 狭山池周辺や町内を流れる残堀川とその周辺の環境 緑 : 農地や狭山丘陵を中心とした雑木林の樹木と草花

観光:自然資源、景観資源、観光施設、歴史資源、郷土の産業である農業、

郷土の歴史や文化

回廊計画は、現況と広域・地域の課題及び上位計画を踏まえて以下の概念で検討しました。

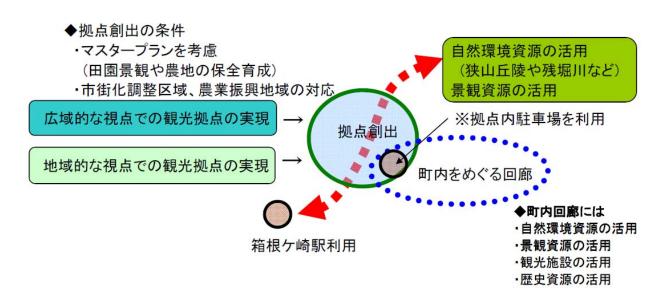
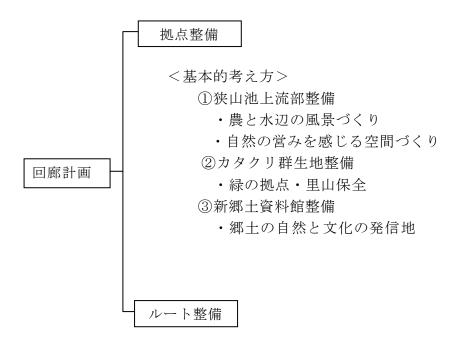


図 3.8.2(1) 回廊計画の概念

3.8.3 計画の構成

この計画は、大きく2つの整備に分かれます。



<基本的考え方>

上記の拠点や狭山丘陵等各地域の資源を結ぶルート整備を推進 し、回遊性のあるルート網の形成を目指します。

- ①歩きやすい道の整備
- ②回遊して楽しい道づくり

3.9 ゾーニング計画

地域の特徴に応じた施策展開を誘導するため、町内の施設及び歴史的資源、自然資源の分布状況をもとに、対象地を「農と歴史・文化のゾーン」「狭山丘陵と眺望のゾーン」「史跡と水を巡るゾーン」の3つのゾーンに設定します。

農と歴史・文化のゾーン

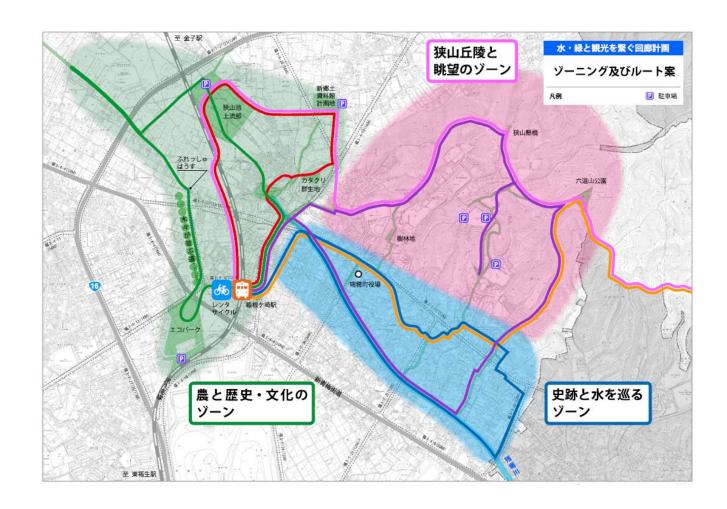
< 特 徴 >郷土の産業である農業や景観、歴史や文化に関する施設が存在するエリア <施策の方向性>農地や樹林地、屋敷林を生かし、農の風景の保全・育成を図り、町の歴史や 文化に親しむ空間を創出します。

狭山丘陵と眺望のゾーン

- < 特 徴 >豊かな自然が残る狭山丘陵と丘陵から町内の眺望が期待できるエリア
- <施策の方向性>遊歩道を生かした回遊して楽しい空間を創出するとともに、遊歩道の充実を 図ります。

史跡と水を巡るゾーン

- < 特 徴 >残堀川を中心に、社寺などの史跡が多いエリア
- <施策の方向性>残堀川が生み出すオープンスペースや水辺の風景の保全・活用を図り、史 跡が発信する町の歴史や文化に触れることができるようにします。



3.10 拠点整備

狭山丘陵の樹林や農地などの資源を生かしながら、瑞穂町の歴史や風土が感じられる空間を形成 していきます。

代表的なプロジェクトは、狭山池上流部の拠点整備、新郷土資料館の整備、カタクリ群生地の整備です。これらの拠点整備に当たっては、樹林地の保全、町民農園の整備、農のある風景の保全など水と緑の保全と観光の視点を取り入れた整備を統合して展開していきます。

回廊計画において中心的な役割を果たすと考えられるこれらの拠点整備の構想を以下に示します。

(1)狭山池上流部の拠点整備

狭山池上流部は、「農と水辺の風景づくり」「自然の営みを感じる空間づくり」を整備の基本的な考え方とします。以下に整備イメージを示します。

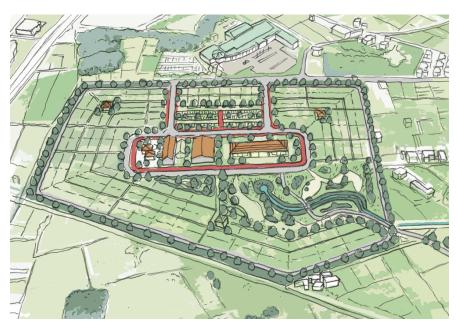


図 3.10.1(1) 狭山池上流部整備イメージ

町民農園の拡充と町外農園利用の受け入れ 町外から参加できる農業体験イベント拠点の整備



図 3.10.1(2) 狭山池上流部整備内容(案)

(2) 新郷土資料館の整備

新郷土資料館は、「郷土の自然と文化の発信地」を整備の基本的な考え方とします。 隣接する耕心館と調和した施設を整備します。狭山丘陵西端の玄関口としてのビジターセンター的な機能を持つようにします。



写真 3.10.1(1) 新郷土資料館計画地

(3) カタクリ群生地の整備

カタクリ群生地は、「緑の拠点」「里山保全」を整備の基本的な考え方とします。以下に整備イメージを示します。



写真 3.10.1(2) カタクリ群生地開花状況

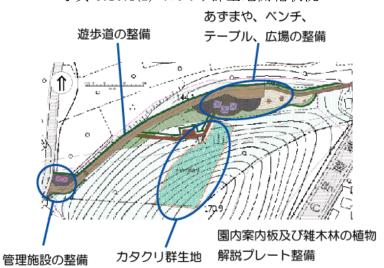


図 3.10.1(3) カタクリ群生地整備内容(案)

3.11 ルート整備

3.11.1 ルート整備推進の基本的な考え方

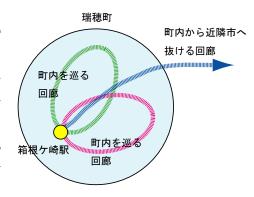
ルート整備推進の基本的な考え方を以下に示します。

狭山池上流部や新郷土資料館、狭山丘陵等各地域の資源を結ぶルート整備を推進し、 回遊性のあるルート網の形成を目指します。また、ルート整備に当たっては、歩きやす い道の整備、回遊して楽しい道づくりに加え、緑や景観に配慮し、バリアフリー化や健 康づくりの視点を取り入れることでルートの利便性と回遊性の向上を図っていきます。

3.11.2 ルート計画

町内の施設及び歴史的資源、自然資源の分布状況をもとに、各ゾーン内の資源を有機的に結ぶルートを次のように計画しました。今後、第8章に示す推進組織において、商店や企業と連携したルートも視野に具体化します。

大きく分類すると、①町内を巡るルート、②町内から 近隣市へ抜けるルート、③サイクリングルートの3パターン に分類されます。



- ①町内を巡るルートは、箱根ケ崎駅や駐車場を拠点として、瑞穂町内を回遊するルートとしました。
- ②町内から近隣市へ抜けるルートは、箱根ケ崎駅から出発し、近隣市へ抜けるルートとしました。
- ③サイクリングルートは、 箱根ケ崎駅を拠点とし、レンタサイクル等で主にみずほ 10 景を回遊するルートを基本としました。各ルートの内容を以下に示します。

<町内を巡るルート>

回廊1:歴史と文化とモニュメントの回廊(

郷土の産業である農業に利用されてきた豊かな雑木林、郷土の歴史の紹介や文化の発信地、古い街道(高根道り)沿いの東京狭山茶ばたけを眺め、狭山池上流部での水辺や農とのふれあい、生き物が棲み、草花を楽しめるビオトープをめぐる回廊

モニュメントを配置し歴史と文化の充実を図る。

回廊2:農と水辺とエコロジーの回廊(

狭山池や水路での水とのふれあい、狭山池上流部での水辺や農とのふれあい、生き物が棲み草花を楽しめるビオトープ、長岡温室とシクラメン街道をめぐる回廊。併せてエコパークの緑地と草花を観賞する回廊

回廊3:史跡と水を巡る回廊(

町内に点在する社寺を探しながら住宅地を巡る回廊。併せて残堀川沿いの水辺の風景も楽しめる。モニュメントを配置し歴史と文化の充実を図る。

回廊4:狭山丘陵と眺望の回廊(-----)

狭山丘陵の手入れの行き届いた雑木林の景観を抜けながら、ビューパーク、狭山懸橋・町内最高標高である一等三角点、六道山公園からの眺望を楽しめる。六道の辻の史跡や狭山丘陵の水を集めて流れる残堀川、狭山地層があらわになっている遊歩道を併せて巡る回廊

<町内から近隣市へ抜けるルート>

回廊5:南巡りルートと結ぶ歴史と文化の回廊(

郷土の産業である農業に利用されてきた豊かな雑木林、郷土の歴史の紹介や文化の発信地、古い街道(高根道り)沿いの東京狭山茶ばたけを眺め、狭山池上流部での水辺や農とのふれあい、生き物が棲み草花を楽しめるビオトープをめぐる回廊

モニュメントを配置し歴史と文化の充実を図る。

町内に点在する社寺を探しながら町内を巡り、狭山丘陵の手入れの行き届いた雑木林景観や六道山公園からの都心や富士山をはじめ、奥多摩、秩父、丹沢の山々の眺望を楽しめる回廊

モニュメントを配置し歴史と文化の充実を図る。

<サイクリングルート>

回廊①:田園の趣を感じるコース(

狭山丘陵北側の元狭山地区で、丘陵の稜線が美しく、茶業、畑作、酪農が行われる田園風景が楽しめる。また、北狭山谷は、近年東京都により整備された。この地区は、昭和33年に埼玉県元狭山村の一部と合併した地区

回廊②:みずほの開拓精神を感じるコース(

長岡長谷部、下師岡の新田地区がある。これらの地区は、享保9年(1724年)以降新田開発が行われ、丘陵麓の集落には見られない整然かつ広大な当時の短冊状の地割りが現在でも残っている。

西部土地区画整理事業は、平成4年に完成し、整然とした良好な住宅地、工業地域が形成された。

回廊③:街道沿いに広がる街並みと丘陵を楽しむコース(_______)

古くから日光街道、青梅街道、狭山丘陵南麓沿いに人が集落を形成し、町の中心部として、 発展してきた。

また、狭山丘陵の谷津では、水生植物や昆虫の生態を観察することができる。

回廊④:横田基地一周走破コース(______)

広大に広がる横田基地と瑞穂町とのかかわりを知る回廊。また、体を動かし、健康を増進する。

